

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

<北海道熊研究会 会報> 第 98 号 2020 年 11 月 17 日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の 1~97 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

北海道の熊の夏と秋の生活

熊は世界的には北半球に広く生息しているが、日本では北海道と国後島と択捉島にのみ居る。北海道での熊の生活状態から夏とは 7 月から 8 月の間を、秋とは 9 月末までを言う。その時期の熊は、生息環境の違いから 2 型に分けられる。高山帯(這松やウツボウツボやチマニシンの自生地)に上がって来て、それらを好んで食べながら、そこで過ごす個体と、這松やウツボウツボやチマニシンの自生していない低地で過ごす個体とである。高山帯に上がって来た熊は、晩秋に新雪が 30cm 以上になると、雪が 30cm 以下の地所に降りて来て過ごす(雪が深くなると、草類であるウツボウツボやチマニシンの、採食が困難になる)。明治の初めから、熊が高山帯に上がって来るのは、吸血虫である蚊や蚋を避けるためだと、最もらしく言われて来たが、それは誤りである。熊は蚊や蚋など気にしない。高山帯の熊は高山性の草類の茎葉や実や多様な木本類の実、とりわけ、這松の球果や高山性のナカマド(カキナカマド、ウツボウツボ)や石をはがして、蟻を好んで食べている。一方低地に居る熊は、40 数種類の樹の実、70 数種類の草類、動物性の物は蟻類、入手し得れば鹿や鮭鱒の他、時には作物果樹家畜などを採食する。9 月になると、ドングリ類、ヤブドリ、コウ、カミ、マタビ類などを食べる。この時期、子を連れた母子は子の年齢で言えば、3 型ある(0 歳子、1 歳子 2 歳子)。また、連れて居る子の数で言えば、これも 3 型ある(単子、2 子、3 子)。皆一心に生活して居るので有る。

(了)

<晩秋(10月)と初冬(11月)の生活>

高山帯に上がって来た熊は、晩秋に新雪が 30cm 以上になると、雪が 30cm 以下の地所に降りて来る。大雪山では、降雪が早い年には、9月の20前後に、標高 1500m以上の所では降雪が 30cm 以上になるので、熊達は低地へと、降りて来る。

北海道では9月は鱒が、10月と11月は鮭が、河川に産卵に遡上して来る時期である。そう言う河川に抛る事が出来得る熊は、道内では限られた僅かな場所しかなくなったが、熊達は鮭鱒目当てに、そう言う場所にやって来る。しかし、鮭鱒の遡上数は、年によって、多寡が有り、少ない年には、殆ど鱒鮭が、河川に上がって来ない。

<産子数と子を母熊が自立させる年数>

母熊は一度に子を1頭から3頭出産するが、子を2頭(双子)、3頭(三つ子)産むには、交尾(5月下旬～7月上旬)後から冬籠もりに入るまでの間に、母熊が鮭鱒を十分に摂取する事が、条件である事を、知床での6年間(2013年～2018年)の継続調査で確認した。また、子を2頭(双子)、3頭(三つ子)産んだ場合、その子達を、満1歳過ぎで自立させる場合と満2歳過ぎで自立させる場合の2通りがあるが、子を満1歳過ぎで自立させる場合は、子が産まれた年に、母子とも十分に鮭鱒を食べる事が条件である事も確認した。従って、複数の子を2ヶ年間連れ歩いて居る母子は、出産した年に母子とも十分な栄養を摂取し得なかった母子と言える。

熊が食い貯めして冬季間ほとんど絶食状態で穴に籠もって過ごすことを「熊の冬籠もり」と言う。これは熊が長い進化の過程で獲得した特性で、本能的行動にまでなっている。熊が冬籠もりに入るのは積雪を伴った寒冷な気候と山野での餌不足が主な原因で、この時期までに食いだめをし、身体の皮下や臓器間や臓器に脂肪として蓄えており、冬籠もり中は食べ物を取らずとも飢えることはないし、困窮の生活でもなく、悠々自適の休養期と言えよう。

<冬籠もりに入る時季>

さて、本道の熊が冬籠もりに入る時季は、気象状態が平年ならば、早い個体で、11月20日頃である。その前に入ることはまずない。多くは12月初旬から12月20日前後(冬至頃)の間に冬籠もりに入り、遅い場合でも年末には冬籠もりに入る。